

#### (4) 平成30年度事業計画(案)について

##### ① 黒岳トイレの管理運営について

黒岳トイレの利用についてはオーバーユース状態であるが、200円の協力金は5割程度しか入っていない状況である。この課題解決に向け、関係機関と協議の上、最善策を見出すことに努める。

維持管理面においては、オガクズのバイオ処理性能が十分に発揮されない「水分過多」の改善を図るため、従来から検討されてきた「固液分離」による処理方式の導入により関係者の負担軽減を図っていくように努める。また、これまでヘリコプターによるし尿運搬を行ってきたが、ヘリ運航会社から「山岳地等の荷揚げ作業の減少等による影響」から料金の値上げを提示されたが、当協議会及び北海道で直ちに調達できる金額になく、対応策の検討を行っていく。

こうした状況から協力金納付の向上が必要であり、安定的な維持管理費を確保するため、ポスターの掲示やチラシ配布(備え置き)などの普及啓発を行うとともに7月後半の繁忙期については、黒岳石室管理人により協力金の呼びかけ等を行い納付の向上に努める。

また、携帯トイレの利用拡大のための方策を検討していく。具体的には、昨年度携帯トイレの利用促進を図るため、回収ボックスの追加設置を検討したことを踏まえ、大雪高原温泉に携帯トイレ回収ボックスを設置する。

##### ② 白雲岳避難小屋の管理運営等について

白雲岳避難小屋については、登山ルート的重要施設であることに鑑み、今年度も2名の管理人を配置し、登山者の安全確保と自然環境保護の啓発を図る。

懸案であった、避難小屋との通信環境整備について、衛星携帯を配備し気象状況や道路情報などの情報共有を図り登山者の安全確保に努める。

##### ③ 自然保護巡視事業について

自然保護巡視事業は、高山植物の盗掘防止と利用者の安全と環境保護のため、上川町・りんゆう観光・高原山荘が負担し協議会で巡視員を確保してきましたが、昨年度よりNPOかむいに巡視人員の確保も含め巡視事業をNPOかむいに委託しており今年度も同様とする。

